

# 20世紀フォックス映画、3アーツエンタテインメント、 株式会社サンライズの3社により 人気アニメーションシリーズ『カウボーイビバップ』 映画実写化へ向けて始動！

20世紀フォックス映画は、日本の人気TVアニメーションシリーズ「カウボーイビバップ(COWBOY BEBOP)」の実写映画をキアヌ・リーブス主演で製作することを決定した。

アニメシリーズを製作した(株)サンライズと3アーツエンタテインメントは、在LA独立系プロデューサー、ジョシュア・ロングとタトル・モリ エイジェンシーの仲介により、映画化権の交渉を行っていた。

3アーツエンタテインメント社長、アーウィン・ストフはプロデューサーとして、ロング氏は製作総指揮として、また、TVシリーズを制作した(株)サンライズの社長である内田健二氏、TVシリーズの監督である渡辺信一郎氏、メインライターである信本敬子氏の3名がアソシエイトプロデューサーとして参加する。(株)サンライズ、並びにシリーズのプロデューサーである南雅彦氏がプロダクション・コンサルタントをつとめる。

現在、彼らはキアヌ・リーブスと脚本家のピーター・クレイグと共にシナリオ開発にかかっている。

【原作「カウボーイビバップ」とは】

サンライズのオリジナルTVアニメーションシリーズとして制作され、1998年4月からテレビ東京系で、同年10月からWOWOWで放映されたSFハードボイルドアクション。

ワープゲートで各惑星が結ばれた2071年の太陽系が舞台。宇宙空間を「ビバップ号」で飛び回る賞金稼ぎ屋のスパイクと仲間達のストーリー。

監督は「アニマトリックス」等で世界的に評価の高い渡辺信一郎氏。「白線流し」等実写・アニメともに活躍する信本敬子氏を中心としたライター陣による脚本、全編に流れる菅野よう子氏のフリースタイルジャズをはじめとした音楽等、一流スタッフの織り成すハーモニーが独特のスタイリッシュな世界観を作り上げ、日本国内のみならず海外でも人気を獲得している。国内ではバンダイビジュアル株式会社がパッケージソフトを発売しており、劇場版を含むシリーズ累計出荷数は100万本に届く勢い。海外においても大きな支持を得ており、国内初回放送から10年を経過してなお、世界中で新たなファンを生み続けている。

【20世紀フォックス 製作部副社長、エマ・ワッツのコメント】

レジェンドのアニメ・シリーズ「カウボーイビバップ」の実写映画化の開発にあたり、サンライズと協力できて、感激しています。また、我々はキアヌ・リーブスとの長年にわたる成功した関係を続けられることにもワクワクしています。リーブスは、2071年に宇宙を飛び回る賞金稼ぎのスパイク・スピーゲル役としてぴったりです。

【3アーツ社 社長：アーウィン・ストフのコメント】

「カウボーイビバップ」を初めて見て、私は、すばらしい独創的な実写映画になる可能性があると思いました。うれしいことに、キアヌも同じ可能性を認めてくれました。いまや、脚本が執筆されていますが、我々は原作の持ち味を維持しながら、フォックスからの熱意あるサポートを手にもたらしたいと願っております。

【サンライズ社長・内田健二のコメント】

これまでの打ち合わせにて、20世紀FOXと3アーツ社および主演のキアヌ・リーブス氏の「カウボーイビバップ」を愛する情熱が強く伝わってきたこと。また、原作の監督・渡辺氏や脚本家・信本氏を含む日本側の意見を十分反映できる企画開発プロセスの関係が作れたこと。以上の点から実写化の判断をいたしました。アニメ「カウボーイビバップ」のファンの皆さんにも満足していただける映画になるようプロジェクトを推進していきます。

株式会社サンライズについて：

本社：東京都杉並区、代表取締役社長：内田健二。1972年9月設立。バンダイナムコグループのアニメーション制作会社。「機動戦士ガンダム」「装甲騎兵ボトムズ」など数多くのオリジナル作品を創出。また、著作物の管理、運用も行い、オンデマンド配信や海外展開にも力を入れている。

3アーツエンタテインメント(3Arts Entertainment)について：

本社：アメリカ・カリフォルニア州、社長：アーウィン・ストフ。マネージメントおよびプロダクション。キアヌ・リーブスのデビュー以来マネージャー業務を20年以上継続し、キアヌ出演映画「マトリックス」「コンスタンチン」等のプロデュースも手がけている。